

## 令和3年度取組状況

ものづくり工学科 AIスマート工学コース／生産システム工学コース

准教授 伊藤 聡史

取組状況	
教育	<p>第3学年の座学科目の設計工学IIにおいて、演習解説型の授業を実施した。演習で取り扱った内容についての定期試験での回答内容については比較的理解度が高く、一定の効果が見込まれることが確認できた。</p> <p>一方で、演習の解説に授業時間を割かざるを得ず、全体の授業進度については無理が生じる面が課題として挙げられる。これに関しては、計算問題については途中式の一部を提示しておくことや、最終解答の数値を示して、自学によるフィードバックが可能な形で教材を作成するなどの方策が考えられるため、次年度以降に実施して効果を確認したい。</p>
研究	<p>材料表面の微細加工による摩擦・摩耗挙動への影響に関する研究(東京海洋大学共同研究)および、フレッチングにおける特異摩耗現象の解明に関する研究に当たった。今年度の進展としては、海洋大学の共同研究者と月に1, 2程度程度の対面での進捗確認や計画の競技を行うことができた。ただし、研究を進める上の時間的な余裕が見込めないことから、具体的な研究テーマや方策についての議論までは行うことができなかった。この点については、コロナ禍の動向を見極めつつ対処法を確立して、試験環境の整備に努めていきたい。</p> <p>今年度の論文、学会発表などの実績はない。</p>
社会貢献	<ol style="list-style-type: none"><li>1.若手技術者支援講座 機械設計のための基礎 講師</li><li>2.熱処理技能検定検定員</li><li>3.講演:コロナ禍における導入教育を中心とした産技高専での取組み 関東工学教育協会 2021年度 工学部長等会議</li><li>4.寄稿:都立産技高専でのコロナ禍対応 日本機械学会誌 124巻1235号 44-45</li></ol>